

## 1. バス公共交通の見直し方針（案）

### （1）路線バスの見直し方針

- ① iバスの利用者（通勤・通学客）の多い区間については、路線バスの運行を要請していく。
- ② 都市基盤整備の進捗状況や住民ニーズに応じて、路線バスの運行を検討していく。

### （2）iバスの見直し方針

- ① 市域内の iバスによる移動サービスの平準化と利便性の向上  
市域のどの地区からでも稲城市立病院へ乗り換えなしで行けるルートを確認する。なお、同時に重要な施設として稲城市役所を位置付け、経由地とすべきアクセスポイントとする。
- ② 交通不便地域の解消  
対応可能な範囲で交通不便地域を解消する。なお、路線の選定は、道路条件を満たしたルートとする。
- ③ 路線バスを補完し、高齢者等交通弱者の社会参加を促進する適正なネットワークの再構築  
iバスは路線バスを補完するとともに、高齢者等交通弱者の外出機会を増やし社会参加を促進する役割を担う交通手段として、適正な公共交通ネットワークを構築する。
- ④ 運行間隔の平準化の推進  
利用しやすい運行とするためには、運行間隔が一定しているわかりやすいダイヤであることが望ましい。このため、できる限り運行間隔の平準化に努めるものとする。

## 2. バス公共交通の見直し条件（案）

### （1）路線バスの見直し条件

- ① 路線バスの運行路線の見直しは、運行の拠点となる駅前広場や運行する道路等の都市基盤整備が必要である。
- ② 今後、都市基盤整備の進捗状況に応じて、路線バスの運行路線の見直しを適切に検討していく。

### （2）iバスの見直し条件

第Ⅱ期のiバスのルート見直しや新規設定を検討するにあたって、iバス運行に関する見直し条件を以下のように設定する。

- ① 行き帰りが同じ経路となるように、往復路線や双方向に運行する循環路線を基本に検討すること。
- ② 第Ⅰ期見直し以前の経路を参考にして検討すること。
- ③ ダイヤに正確で、コストも抑えられる短距離路線についても検討すること。
- ④ 運行頻度を高め60分に1本程度の運行間隔を目指すこと。
- ⑤ 現在の運行間隔のバラツキを是正し、一定の運行間隔で乗りやすいダイヤとすること。
- ⑥ 車両を効率的に運用すること。
- ⑦ 経済的に効率のよい運行を提供することにより、運行経費と運行収入の適正なバランスを保つこと。

会議における協議の結果、下記のとおり修正して決定

# 1. バス公共交通の見直し方針

## (1) 路線バスの見直し方針

- ① iバスの利用者（通勤・通学客）の多い区間については、路線バスの運行を要請していく。
- ② 都市基盤整備の進捗状況や住民ニーズに応じて、路線バスの運行を検討していく。

## (2) iバスの見直し方針

- ① 市域内の iバスによる移動サービスの平準化と利便性の向上  
市域のどの地区からでも稲城市立病院へ乗り換えなしで行けるルートを確認する。なお、同時に重要な施設として稲城市役所を位置付け、経由地とすべきアクセスポイントとする。
- ② 交通不便地域の解消  
対応可能な範囲で交通不便地域を解消する。なお、路線の選定は、道路条件を満たしたルートとする。
- ③ 路線バスを補完し、高齢者等交通弱者の社会参加を促進する適正なネットワークの再構築  
iバスは路線バスを補完するとともに、高齢者等交通弱者の外出機会を増やし社会参加を促進する役割を担う交通手段として、適正な公共交通ネットワークを構築する。
- ④ わかりやすく利用しやすい設定  
利用しやすい運行とするために、シンプルでわかりやすい路線・ダイヤとし、できる限り運行間隔の平準化に努め、利用促進が図れる設定とする。
- ⑤ 効率的な運行による持続性の確保  
経済的にバランスのとれた効率のよい運行とすることで、持続可能な iバスの運営を図る。

# 2. バス公共交通の見直し条件

## (1) 路線バスの見直し条件

- ① 路線バスの運行路線の見直しは、運行の拠点となる駅前広場や運行する道路等の都市基盤整備が必要である。
- ② 今後、都市基盤整備の進捗状況に応じて、路線バスの運行路線の見直しを適切に検討していく。

## (2) iバスの見直し条件

第Ⅱ期の iバスのルート見直しや新規設定を検討するにあたって、iバス運行に関する見直し条件を以下のように設定する。

- ① 行き帰りが同じ経路となるように、往復路線や双方向に運行する循環路線を基本に検討すること。
- ② 第Ⅰ期見直し以前の経路を参考にして検討すること。
- ③ ダイヤに正確で、コストも抑えられる短距離路線についても検討すること。
- ④ 運行頻度を高め60分に1本程度の運行間隔を目指すこと。
- ⑤ 現在の運行間隔のバラツキを是正し、一定の運行間隔で乗りやすいダイヤとすること。
- ⑥ 車両を効率的に運用すること。
- ⑦ 経済的に効率のよい運行を提供することにより、運行経費と運行収入の適正なバランスを保つこと。